特別優秀賞

わたせたバトン

福井県　南中山小学校　四年
齋藤　月希

わたしは、５才のときに岡山県から福井県に引っこしてきました。岡山県の友達とははなれ、まわりは知らない子ばかりでした。知らない子の中に入っていくのは、少しこわいなぁと思っていたとき、ある子が話しかけてくれました。

「いっしょにあそぼう。」

そのひとことから、どんどん仲良くなり友達になりました。数カ月すると、ほかの子たちとも仲良くなり、たくさんの友達ができました。わたしにたくさんの友達ができたのは、その女の子のおかげです。その女の子は、あのときのことをおぼえていないかもしれないけれど、わたしは今でもよくおぼえています。その女の子が着ていたＴシャツの色も、がらもおぼえています。わたしもいつか、そんなふうにだれかに声をかけてあげられたらいいな、と思っていました。

ある日、陸上の練習の終わりに、お母さんが言いました。

「つきちゃん、いいことできたね。」

わたしは、今年の春休みから陸上を習い始めました。走るのが好きなので、とても楽しく通っています。でも、家から少し遠いので同じ学校の子はいません。この前の大会では、はじめてリレーに出ました。四人で走ります。まだ、あまり話をしたことがない子たちばかりでしたが、バトンをもらう子と仲良くなっておきたいなと思い、声をかけました。

「名前なんていうんですか。いっしょにがんばりましょうね。」

さい初は、なかなかうまくいかなかったバトンも、「次はこう気をつけよう」と言ったりしました。ほかの話もするようになり、リレーのメンバーみんなと仲良くなりました。次の大会は、リレーへの三回目のちょう戦です。わたしが話しかけた子は、わたしより先に陸上を始めていましたが、同じ学年の子と仲良くなれなかったそうです。その子のお母さんに、わたしのお母さんはこう言われました。

「つきちゃんがうちの子と仲良くなってくれたおかげで、ほかの子とも話ができるようになった、本当にありがとう。」

わたしはおどろきました。５才のときのわたしと同じだったのです。いつか、わたしもだれかに声をかけてあげられたらと思っていたことが、いつの間にかできていたなんて、本当におどろいたし、うれしい気持ちになりました。５才のときにもらった親切を、９才になってべつの子に返すことができました。

親切が友達からわたしに、わたしからべつの友達にまるでリレーをしているようです。またいつか、バトンをだれかにわたしたいと思いました。